

訪問看護通信

きつき訪問看護ステーション

熱中症は大丈夫ですか？

今月も先月に引き続き熱中症について紹介し
ます。熱中症は重症度 〃 に分類されます。
それぞれどのような状態かを説明すると、
・：めまい・立ちくらみがある・筋肉のこむ
ら返りがある・汗が拭いても拭いても出てく
る。

：頭痛・嘔気や嘔吐・身体がだるい。
：意識がない・痙攣を起こす・呼びかけに
対し返事がおかしい・まっすぐに歩けない、走
れない・体温が高い。

以上が熱中症の症状になります。
応急処置として、まずは風通しの良い日陰
や、冷房の効いている場所に移動し、衣服を緩
めて身体を楽にします。そして冷水で絞ったタ
オルを、脇の下や足の付け根に当てて体を冷や
し、スポーツドリンクや薄い食塩水(500m
lに塩を1g)を飲みますが意識障害などがあ
り、自力摂取困難な場合は無理に水分補給はし
なくても良いです。また意識障害や高熱が出た
場合などは早めに医療機関へ受診しましょう。
まだまだ暑い日が続きます。長時間の暑い場
所での作業は避け、水分摂取をこまめに行いな
がら体調を崩さないように気をつけましょう。

木元

教えて！どんな資格？

今号より「教えて！どんな資格？」というコー
ナーを始めさせて頂きます。このコーナーでは
ひまわり職員の持つ資格についてどんな資格な
のかを紹介いたします。記念すべき第一回は「福
祉用具専門相談員」です。この資格は、高齢者
が、介護保険で福祉用具を利用する際、ご本人
やご家族の希望に応じて、その方の状況にあっ
た福祉用具の選定相談や適合等を行う資格です。
瑞雲荘の高尾生活相談員が取得しています。
高尾生活相談員によると「介護サービスの殆ど
は人的サービスで、サービスが提供されている
間しかその方を支える事が難しいのですが福祉
用具はその方の生活に24時間接する事ができ、
また、その方の失われた身体機能を補う事もあ
る、さらには、その方にあつた福祉用具を使用
することで介護予防や自立支援につながる事も
出来る。」「単純に車椅子といつても様々なタ
イプがあり、選定を誤ると、廃用症候群に繋が
る事もある。残存機能を生かせるような選定に
努めていきたい」との事。



毎月10日発行 編集責任者 社会福祉法人ひまわり 高尾毅

編集後記

最近「徘徊タクシー」という小説を読みまし
た。建築家を目指す青年が認知症であり徘徊
をされる祖母をある日、背負って、祖母の言
うまま、望むまま散歩をした際に、小高い丘
の公園にたどり着き、そこで祖母は「やまく
ち・」と言葉を発するが、そこは山口とい
う地名では無く、また近くに「やまくち」と
書かれた看板なども無く不思議に思い、自宅
に戻り母に、祖母と「やまくち」の関連を聞
くと、以前山口県に住んでいたとの事を知る。そ
でその青年はこう思う「人間はつい目の現実を
世界の全てだと思ってしまうが、実はそうではな
い。この世にボケ老人なんていない。彼らは記憶の
地図をもとに歩いているだけなんだ」と。そこでそ
の青年は「徘徊タクシー」なるタクシー会社を立ち
上げ、徘徊される高齢者の記憶の地図を行うとい
う内容でした。徘徊される方不明になられる高齢者
が年間1万人を突破しました。また、徘徊され線路に侵
入し、残念な事に電車で轢かれ命を落とした高齢者
の遺族が電車会社から電車のダイヤを狂わせた等の
被害を受けたとして民事で訴えられていたことが、
最高裁はその遺族に監督義務を怠ったとして賠償を
求めました。認知症への理解がまだまだ浸透してい
ませんし、認知症への医療サービスや介護サービス
も不十分であると日々感じます。そして我々対人援
助職に何が出来るのか？援助者の都合を優先させて
いないか？ご家族の意向ばかりを(勿論大事です
が)聞いていないか？認知症だからと言って、その
方を理解することを怠っていないか？利用者に寄り
添い、気持ちを理解し、その気持ちを代弁し、認知
症と診断
されても
その方ら
しい生活
を支援で
きるよう
これから
も精進し
ていきま
す。高尾



社会福祉法人ひまわり理念
・利用者の尊厳を守り、敬愛の精神で接すること
・地域福祉の拠点となり、開かれた施設として地域に貢献
すること
基本方針
・利用者があるがまの姿を受け入れ、見守り、優しく安らぎの
ある施設にします
・利用者の意思を尊重し、利用者の立場で考え、安全で
平等な援助に努めます
・地域の関係機関と連携し、地域福祉の推進と向上を目
指します
・社会で通用する接遇を修得し、利用者にも明るく持ちの
良い態度で接します
・日々向上心を持って、専門機能の研鑽に努めます

介護保険が変わります。

介護保険が大きく変わります。介護保険な
どを見直す「地域医療・介護推進法案」が
6月18日、参議院で自民党、公明党の賛成
多数で可決、成立しました。その内容を簡
単に説明しますと、現在特別養護老人ホー
ムへの入所は要介護認定を受けていれば可
能でしたが、要介護1と2の方は原則入所
できず(一定の条件を満たせば可)介護の
必要度によって特別養護老人ホームへの入
居者が制限されます。一定の年金年収が
あれば自己負担割合が倍になる。現在、介
護保険の利用者負担は一律で1割負担となっ
ています。例えば20万円分のサービスを受
けたら2万円を負担するというものです。
この利用者負担が、一定以上の所得がある
人は、2割負担に引き上げられる見通しで
す。要介護1・5に向けた「介護給付」、
要支援1・2に向けた「予防給付」のうち、
要支援者向けの予防給付の訪問介護(ヘル
パー)と通所介護(デイサービス)の二つ
を介護保険から切り離し市町村の裁量に任
せられます。
その他にも、特別養護老人ホーム等の食
費、居住費の補助の見直しやサービス付高
齢者住宅の住所地特例の範囲拡大等が盛り
込まれております。
いずれにせよ、介護保険が大きく変わる
事は間違いありません。利用者の皆様へは
料金の負担増等で戸惑う事もあるうかと思
います。皆様に混乱を招くことなくサー
ビス提供が行えるように努めます。

きつきの里デイサービス

8月9日、この1年間に亡くなられた方の供養をしよ
うと計画準備をしてきた今年のまわるひまわり盆踊りは、
台風11号の為に中止になってしまいました。そこで、お
盆の13日、15日にデイサービスの午後の時間を使い供養
盆踊りを催しました。職員が浴衣を着て踊り始め利用者
様に声を掛けると踊り慣れた利用者様も次々に参加して
下さり立派な踊りの輪がたちました。
利用者様は「わたしも踊るで！」と言って下さったり、
「もう踊れんで」と言っていた方も踊りの口説きが聞こ
えてくると立ち上がり自然に身体を動か
していました。始め
る前に「太鼓は誰が
たたくんかい？」と
聞かれたので「残念
ですが今日は録音し
たCDを流します」と
答えると「50年前
はわしも太鼓をたた
いたんじゃけど
なあー」とその方は
おっしゃっていました。
その頃の威勢の
いい姿が想像出来ま
した。



新人職員紹介



江口 成之

7月からデイサービスに勤務しています。常に笑顔で心掛けて頑張りますのでよろしくお願いいたします。

二楽園デイサービス

そつめん流し

利用者様に、この暑い夏を乗り切って頂くようお願い恒例のそつめん流しを行いました。毎年、藤の川の方から頂く大きな孟宗竹を職員が竹割りとりと節取りをし、およそ10mの本格的なそつめん流しの始まりです。



4色のそつめんやさくらんぼが流れてくると、椅子から立ち上がり身を乗り出して上手にすくい上げられます。普段、食の細かい方もこの日とばかりは沢山召し上がり、「みんなと食べると美味しいな」と喜ばれていました。

手芸 キーホルダー作り

プラスチックの板に好きな絵を書き、オーブントースターで温めるとみるみる縮まり、可愛いストラップの完成です。ご自身の分、また、お盆で帰省するお孫さんやひ孫さんへプレゼントする為に、皆様楽しまれながら真剣に作られています。1つ仕上がると、「今度はこの柄にしよう」と次々と挑戦されています。



教室「お絵描き」作品
木下東子様

ひまわりハウス

ひまわりハウスでは俳句を作るのが好きな利用者様（小田原房江さん）がいらっしやいます。今まで数々の俳句をつくり自身のノートに記しています。職員が俳句の作り方を伺ったところ、「俳句は考えてはダメ。その場で思い浮かんだこと思いついたことを素直に書きなさい」と言われまして、簡単にはできることではなくやっばり考え込んでし



瑞雲荘

研修会

瑞雲荘では毎月、施設内研修会を開催しておりますが、オムツメーカーさんの協力を仰ぎ「排泄介助」の研修会を開催しました。新人職員を中心に受講し、オムツの選び方、尿とりパッドの当て方等を学びました。



清掃活動

また、技術の統一を目標とし職員それぞれが研鑽しスキルアップをしていきよりよい施設を目指して頑張りたいたいと思います。



8月3日に地域の清掃活動に参加しました。ひまわりハウス周辺、大内地区を中心に草刈り、草むしり、ゴミ拾い等を行いました。地域の方から「みない顔ね、どこの人？」と聞かれ、「ひまわりハウスです」と答えると「あー！あそこの施設の人か、ありがとだね。ご苦労様」「若い人がいると助かるわ」と嬉しい声を頂け、地域の方との交流を深めることができました。今後も、地域での様々な行事等に参加していく予定です。



法話の会

お盆の入りの日に法話の会を開催しました。瑞雲荘は入所施設であり、お盆といえども自宅に戻られる方は少なくご仏前に手を合わせることが出来ませんが、場所を問わず、ご先祖を想い、合掌することでお供養になるのではないかと思



施設内研修

まいります。職員の考えた俳句は「欲しいもの 数々あるが金がない」という句に小田原様は笑って、「おかしいが素直で中々うまい」と褒めてくださいました。今後も小田原様の俳句を楽しみすると同時に職員もいい俳句が作れるように日々勉強していきます。

- ・ 年老いて 指をおりつつ 句をさがす
- ・ 五七五 探す楽しさ 老いの身は
- ・ 窓眺め 浮かぶ言葉の 楽しさよ

小田原 房江

8月5日に理学療法士の古賀先生による移乗介助についての研修が開かれました。利用者様はもちろんです、介助する職員にも負担の少ない身体の使い方

二人一組になり行う体験型の研修でした。利用者様の立場も体験することで介護をされる方の気持ちも理解することが出来ました。

